

いのちの大切さと、支え合う社会の“気づき” ～「平和学習」と「ブラインドサッカー体験」の紹介～

直方市文化・スポーツ推進課【公立公民館】

ふれあい交流コーディネーター 花田 義朗
主任 西田 信吾

1. 事業名

ふれあい交流事業より「平和学習」

2. 事業の目的

高齢者の社会参加と生きがいのづくり
学習支援

3. 事業の実施主体

直方市中央公民館

4. 連携・協力機関・団体等

ボランティア団体・自治区公民館
高齢者支援課など

5. 事業予算

3,900,000円（※年間コーディネーター人件費2名分含む）

6. 実施に至る経緯

平成10年度より県委託事業「ふくおか高齢者大学」の開設を機に、受講生が学習活動だけでなく社会参加と生きがいの場の一つとして、小中学校での学習支援活動としての「ふれあい交流」事業がスタートした。その後、19年度からの「ふくおか高齢者はつらつ活動拠点事業」を経て、24年度の県事業終了後も市単費で継続実施中。「平和学習」も昔遊びや習字といった学習支援活動の一つであり、高齢者自らの体験が子どもたちとの交流に生かせる貴重な取り組みとして実施してきた。

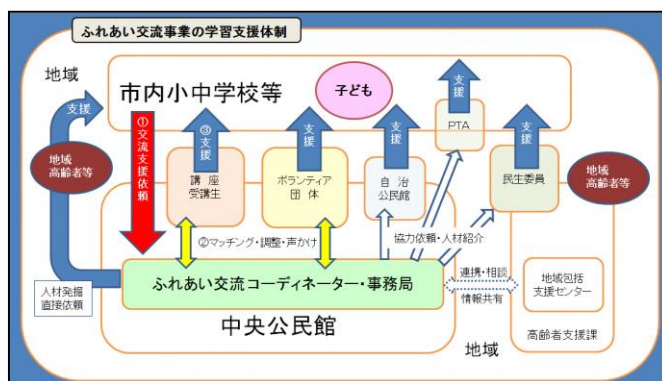
7. プログラム作成の視点

「平和学習」も他の学習支援活動同様、原則4月当初に学校からの希望、要請を受けてから、コーディネーターが学校と人材の調整・派遣を行っている。実施時期を修学旅行前後に合わせ、子どもたちも事前学習をしているので、あらかじめ動機や意識づけがなされている。また、支援者である高齢者の方々には、普段通りの方言で構わないが、語りの中などで差別的な表現などは避けていただくようあらかじめ説明している。

8. 事業の内容

いわゆる戦争体験の語り部として、戦時中の実体験に基づくお話をしていただくが、今ではもう支援者の中には戦地に行った方はおられないため、当時の衣食住など生活の様子や、丁度児童達と同じくらいの年齢だった方から、子ども目線で感じたことを語って頂き、人の命の大切さと平和の有り難さ、「二度と戦争をしてはいけない」という強いメッセージを必ず伝えて頂いている。また防空頭巾やモンペのレプリカや、当時の貴重な品を支援者等からお預かりし、子どもたちに触れてもらっている。

今年度は、小学校6年生を対象に3校で実施し、支援者は班やグループに分かれて体験談を話した後、児童からの質問に答えた。子どもたちは、まとめの時間に支援者への感謝の言葉や感想などを発表した。後日、支援者一人一人にお礼状も届けられた。



地域 地域 高齢者等 地域 高齢者等

9. 事業の成果

戦争や平和といったテーマに関しては、地域高齢者の貴重な話が聴け、大変有意義な活動となった。また、子どもたちにとっては「ご高齢の支援者の方がゆっくりと教室まで歩かれること」、「階段の昇り降りがつらそうなこと」、「授業の1～2時間教室で立ったりしゃがんだりして疲れるので、休憩用のイスを準備すること」、「感想や質問をしても耳が遠くなり聴こえにくいこと」、「小さな文字が見えづらいこと」を目の当たりにする機会にもなった。児童が学校で地域のおじいちゃん、おばあちゃんと接する中で、子ども達自身が気づき、学び、考えることで、共に生き、人を思いやる心を育む取り組みとなった。

10. 今後の課題

一時は、複数の学校で同時に40名の方が、戦争体験を語っていたのが、支援者の高齢化などで人材が年々減少してきたことが課題である。これはふれあい交流全体にも共通することなので、自治区公民館などの協力団体を通し、新たな支援者の掘り起しにも力を入れたい。また、貴重な語りに関しては、文章や音声・映像に残すなどの取り組みも実施したい。



【平和学習の様子（直方南小学校 6年生）】



1. 事業名

ブラインドサッカー体験
～耳と心をすませば～

2. 事業の目的

イベントを通して障がいのある人もない人も笑顔になるイベントの開催

3. 事業の実施主体

直方市教育委員会

4. 連携・協力機関・団体等

直方市青少年育成市民会議、直方市スポーツ推進委員協議会、わくわくクラブのおがた（総合型地域スポーツクラブ）、ギラヴァンツ北九州、NPO法人北九州スポーツクラブACE、LEO STYLE北九州（ブラインドサッカーチーム、スポーツクラブACEの組織）

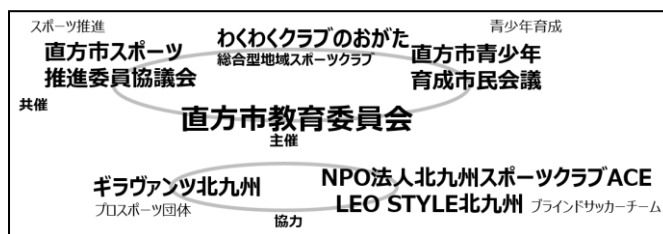
5. 事業予算

180,000円

6. 実施に至る経緯

平成30年度に直方市スポーツ推進委員協議会と直方市青少年育成市民会議が共催で実施していたニュースポーツ大会を、わくわくクラブのおがたとも共催で実施した。本年度は、直方市教育委員会とも、4者の力を結集して事業を開催する方が有益であるとの意向が一致し、本事業を検討するに至った。

事業内容は、東京2020オリンピック・パラリンピックの開催に際して機運を高めるために、ギラヴァンツ北九州と協議してブラインドサッカーを開催することとした。



7. プログラム作成の視点

普段、体験することができないようなパラリンピック関係の競技を、体験を通して、お互いに、楽しめる内容になるよう検討を図った。

8. 事業の内容

- ①アイスブレイクとウォーミングアップ
(ストレッチ) -----15分
- ②目を閉じて歩く・走る-----20分
・横一線に並び、目標のラインまでを目測してから目を閉じて目標に向かって歩く。
次に、目標まで走る。
- ③選手によるデモンストレーション-20分
・パス交換、ドリブルシュート、3対3の実践を観戦。
- ④ブラインドサッカー体験-----40分
(アイマスクを付けて)
・キックターゲット：コーンを狙ってキック。
コーンの向こうに声を掛けて狙いを定める役割の人を配置。
・二人一組ブラインドサッカーゲーム：二人で手をつなぐ。一人がアイマスクを付ける。もう一人はアイマスクを付けず、シュートを打ってはいけないルール。5組1チームとし、チーム対抗戦を行った。



【選手のスーパープレーに感嘆の声が上がる】



【手をつないで仲間の声を頼りにプレーを楽しむ】

9. 事業の成果

- 参加者（大人29人、子ども44人）が次に挙げるような様々な気づきを得られた。
 - (1) 視覚を閉ざして体を動かす難しさに舌を巻いていた。
→視覚から得られる情報の多さを実感。
 - (2) アイマスクを付けた仲間を誘導した。
→相手の立場に立つ配慮をするという心が芽生えた。
 - (3) ブラインドサッカーチームの選手が華麗にボールをさばき、見事にシュートを決める姿に会場から感嘆の声が漏れていた。
→視覚に障がいがある方への尊敬。
 - (4) 視覚を閉ざした状態で体を動かす楽しさを体験してもらえた。
→普段は体験できないような新鮮さを感じてもらえた。
- 運営者は、目的が共有できる者同士で協働する有益性を確認できた。

10. 今後の課題

参加者が、今回のイベントで得られたような気づきを普段の生活の中で活かせるような仕組みづくりを検討したい。運営者が今後も引き続き関係性を保ち、更に内容を充実させられるよう検証を続けたい。

問合せ先

〒822-0026 直方市津田町7番20号

直方市教育委員会 文化・スポーツ推進課 社会教育係

TEL : 0949-25-2326 FAX : 0949-22-0785 E-mail : n-kominkan@city.nogata.fukuoka.jp